

## 医療入門

(Introduction to Bed Side Learning)

### 【責任者/担当者】

〔医学教育センター〕 蓮池 由起子 医学教育センター長、今西 宏安 准教授、  
庄司 拓仁 講師  
〔医学教育学〕 常見 幸 准教授

### 【担当者】

〔梅田健康医学クリニック〕 大柳 光正 院長  
〔心理学〕 室井 みや 教授  
〔卒後研修室〕 平野 公通 准教授  
〔心臓血管外科学〕 山村 光弘 講師  
〔輸血・細胞治療センター〕 日笠 聡 講師  
〔ペインクリニック部〕 高雄 由美子 教授  
〔臨床疫学〕 西村 理恵 博士研究員  
〔日本新薬株式会社〕 中島 弘 チーフメディカルオフィサー(特別招聘教授)  
〔認定NPO法人 Future Code〕 大類 隼人 代表理事(非常勤講師)  
〔大村病院〕 森村 安史 理事長  
〔上ヶ原病院〕 大江 与喜子 理事長  
〔公益社団法人地域医療振興協会〕 北村 聖 顧問(客員教授)  
〔兵庫県医師会〕 八田 昌樹 会長  
〔神戸百年記念病院〕 福島 豊実 内科部長(非常勤講師)  
〔関西医科大学〕 西山 利正 教授  
〔国立民族学博物館 人類基礎理論研究部〕 平野 智佳子 准教授(非常勤講師)  
〔作家〕 松本 順司 氏(非常勤講師)  
〔松前病院〕 山本 和利 病院事業管理者(非常勤講師)  
〔大阪医療刑務所〕 堀内 俊治 医療部長  
〔広島大学 医学部附属医学教育センター〕 蓮沼 直子 センター長(特別招聘教授)  
〔慈恵会医科大学〕 福島 統 特命教授(特別招聘教授)  
〔特定非営利活動法人 東京肝臓友の会〕 米澤 敦子 事務局長  
〔認定NPO法人ささえあい 医療人権センターCOML〕 山口 育子 理事長

### 【目的】

臨床実習に臨む前に、医療者としての基盤を構築する。医療と社会との関係を把握し、従来の基礎医学や臨床医学の知識だけでなく、医療コミュニケーション、危機管理、チーム医療、患者さんの気持ち、行動学、臨床心理学、医療における男女共同参画、臨床研究、研究者倫理、国際保健、アンガーマネジメント、医療人類学、予防医学、性の多様性、医療コーディネーターなど幅広い角度から医療について考える。

### 【科目キーワード】

「コミュニケーション (communication)」「危機管理 (crisis management)」「チーム医療教育 (inter-professional education)」「行動学 (behavior science)」「臨床心理学 (clinical psychology)」「男女共同参画 (gender equality)」「臨床倫理 (research ethics)」「国際保健 (global health)」「アンガーマネジメント (anger management)」「医療人類学 (Medical anthropology)」「予防医学 (preventive medicine)」「性の多様性 (Sexual diversity)」「医療コーディネーター (medical coordinator)」

### 【到達目標(アウトカム)】

- 良好な医療コミュニケーションの重要性を説明できる。
- 医学史、本学の歴史を概説できる。
- チーム医療とグループダイナミクスの医療における重要性を説明できる。
- 医療と社会との関わりと考え方の変化を概説できる。
- 宗教と医療の関りについて概説できる。
- 行動学、臨床心理学について概説できる。
- 医療における男女共同参画の意義を説明できる。
- 疾病・障がいをもたらす生活への影響を説明できる。
- より良い療育生活を支えるためのネットワーク構築について説明できる。
- 海外の医療の状況と国際保健の在り方を説明できる。
- 研究者倫理、COI などについて概説できる。
- 卒後研修制度・マッチングについて概説できる。
- 代替医療について概説できる。
- 地域医療の実際、地域医療政策、医師会の役割を概説できる。
- アンガーマネジメントの基本を説明できる。
- 医療における医療人類学の重要性を説明できる。
- 予防医学、健康診断の意義と重要性を説明できる。
- 性の多様性を理解し、対応を概説できる。
- 医療コーディネーターの仕事を通じて患者さんの気持ちを理解する。

### 【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・地域保健や社会福祉のシステムを説明できる。
- ・医療へのかかりやすさ(accessibility)の重要性を説明できる。
- ・予防医療の理念を理解できる。
- ・医療の持つ社会的側面の重要性を説明できる。
- ・プロフェッショナリズムを理解し、その実践に必要な豊かな人間性を有している。
- ・医の倫理、生命倫理について説明できる。
- ・人生の最終段階における医療を説明し、患者とその家族への配慮を理解できる。

- ・他者を理解し、互いの立場を尊重した人間関係を構築して、学内の人々や団体と関わることができる。
- ・周囲の人々と適切なコミュニケーションをとることができる。
- ・自己管理能力を身に付け、能動的に医学を学修できる。

### 【概要ならびに履修方法】

各方面の専門家を招聘し、講義が中心である。一部は参加型教育を行う。

### 【準備学習ならびに事後学習に要する時間】

講義予定のトピックスについて、自主的に新聞、書籍などに目を通し、予備知識を蓄えること。時間は指定しない。

### 【成績の評価方法・基準】

試験およびレポート(感想文)を 100%とするが、講義中の態度不良や特別講義の欠席などは減点する(総合評価)。レポート(感想文)は評価し、点数化する。これらは再試験でも適用される。

特に、山口育子氏、米澤敦子氏の講義は必ず出席のこと。欠席の場合は定期試験・再試験受験を認めず不合格とする。その際の点数は出席、授業態度、レポートなど勘案し 44 点、54 点、64 点のいずれかとする。止むを得ない事情で欠席の場合は、ビデオによる補講を指定した日時に一度だけ行う。遅刻、私語、居眠り、他の作業を行うなどの態度不良は不合格または大幅な減点を行う。

また、EQ テストは必ず受験すること。未受験の場合は不合格にする場合がある。

### 【学生への助言】

講師の話を真摯に傾聴し、積極的に質問すること。

### 【フィードバック方針】

優れた感想文、あるいは問題のある感想文があればコメントをつけて返却する。

### 【オフィスアワー】

多くの講師によるオムニバス形式のため設定しない。

### 【受講のルール、注意事項、その他】

静粛にし、真摯な態度で講義を受けること。

一部は関西学院大学交流科目である。

講義回数は出席を確認した回数とする。すなわち特別講義などで 2 時限予定されていても、

1 回しか出席を取らない場合は、1 回と計算する。

なお、この科目は医師となる資質を涵養し、その成長を評価するための科目である(Fitness to Practice)。この科目外であっても医学生に相応しくない行動、態度があると思われた場合は、教務委員会等における審議を経て、受講不可もしくは不合格とする場合がある。

**【教科書】**

多くの講師によるオムニバス形式のため指定しない。

**【参考書】**

多くの講師によるオムニバス形式のため指定しない。

**【連絡先】**

教育研究棟 3階 医学教育センター